

六日出羽の按察使に補せられ八月六日に最上山
形へ入部あり二十余年此星雲を経て康暦元年己未
六月八日逝去に光明寺殿是也其子右京大夫直家代
其子修理大夫満直代其子修理大夫満家代其子左
京大夫頼宗代其子右京大夫義春代子無し舎
弟修理大夫義秋代満家の三男義食子なり其子歸
治部太輔満氏代其子右衛門佐義淳代其子左
京大夫義定代子無し舎弟義建中興殿の子義清の子
を養子とす左京大夫義守也代其子出羽守義光
と相續して山形を居城とす其子應仁の亂

よりこのころ武威漸く衰へ奥州鎮守府も出羽の按察
使も唯名のこゝろで義守は時迄を終へ山形近邊は
かりを領せられ志す所ふ義光公を生れ付智勇人
と勝まけるなり近邊を平なひけ勤めいとては強太に
成り出羽一國の守護と成は其子細をヨリぬれよ
永禄元年此秋義光公十二歳此時市父義守公
よりともに常國高湯の温泉入湯のため数日而
逗留此折より何れ夜近邊に盜賊甚數多而旅客
へ恐れ入り多に近習此者起き合は嚴敷防ぎ戦
ひたり義光公若年なれども力量人に據れ而も氣